

疾患を持つ子どもたちへの 夢チャレンジサポートプロジェクト

代表者 森 園子 (医学部看護学科4年)

1. 目的と概要

健康な子どもたちならば、家庭や学校で遊びを通して、言葉、物の使い方、社会的ルールなど多くのことを学びます。それと同時に、その遊びを通してストレスを発散することができます。しかし、病気を持つ子ども、特に慢性的な病気で入院している子どもたちは、病気の状態や治療による制限でストレスがたくさんあるにも関わらず、その遊びが制限されています。そこで私たちは、子どもたちに、より年齢が近く、子どもの病気や生活・発達に関する知識のある私たちがこの「疾患を持つ子どもたちへの夢チャレンジサポートプロジェクト」を通して、疾患を持つ子どもたちが入院中でも退院しても疾患を上手く付き合いながら、今そして将来に対して夢を持てるようにサポートすることを提案しました。

2. 実施期間（実施日）

平成21年6月1日 から 平成22年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業の具体的な活動は大きく分けて2つです。1つは入院している子どもたちへのサポート、もう1つは地域で生活している疾患を持った子どもたちへのサポートです。

入院している子どもたちへのサポートとしては、花火大会、作品展の飾り付け、クリスマスの飾りつけのお手伝いを行い、病棟ボランティアを行いました。これらのことは全て、香川大学医学部付属病院でさせていただきました。花火大会、作品展の飾り付け、クリスマスの飾りつけは小児科病棟で計画されていることで、その中でも学生にもできる準備や花火をする子どもたちの見守りや、一緒に花火を楽しんだりしました。また、クリスマスの飾りつけや作品展の飾りつけは、新型インフ



ルエンザが流行していて患児さんとの接触ができなかったときは、病棟ボランティアとして学校に行った時に飾り付けをさせていただきました。病棟ボランティアでは、看護部の方や病棟の方にこの活動の説明をし、認めてもらった上で活動をできるようになりました。毎週土曜日に午前と午後2、3名の学生で行きました。プレイルームで患児さんたちと作品を作ったり、いろんな話をしたり、本を見たりゲームをしたりしました。プレイルームへ行けない子どもたちとは、患児さんの部屋へ行き勉強を教えたり、一緒に作品を作ったりしました。患児さんとのかかわりだけでなく、家族の方ともいろんな話をしました。私たちが来ているときは、家族の方は休まれることもありました。患児さんは、何回か私たちが病棟に行くと顔を覚えてくれ「前のお姉ちゃんだ！」ととても喜んでくれました。一緒に遊びを通して、入院中の子どもたちのストレスを軽減できたり、単調で苦痛を伴う入院生活での楽しみの一つとなったのではないかと思います。

また、地域で生活している疾患を持った子どもたちへのサポートでは、「小児がんの子どもを持つ家族の会」との交流がありました。9月にはサマーキャンプが行われ、その会の手伝いをしたり、子どもたちに遊びを提供しました。提供した遊びは、しっぽとりゲーム、バルンアート、水鉄砲でも水かけ、長縄、スイカ割りなどです。年齢も幅広く、その中でも参加した学生は子どもたちと同じ目線で、同じ気持ちで子どもたちと元氣いっぱい走ったり、話をしたり、笑ったり、いつも笑顔がたえませんでした。水かけも子どもも学生も容赦なくかけ合いました。普段の生活ではなかなかできないことだったと思います。思いっきりはしゃぐことができたキャンプになり、子どもたちからは「今年が一番楽しかった」と、言ってもらえました。また、絵本の紹介もしました。疾患を持つ子どもや兄弟向けの絵本、家族向けの本を用意し、紹介しました。「小児がんの子どもを持つ家族の会」のメンバーの方々とは、サマーキャンプ後も交流させていただいています。交流会では、患児さんや家族の方の生の声を聞くことができ、机上の勉強や実習だけでは学ぶことができないことを学ぶ機会となっています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

まず、ボランティア活動をさせていただいた香川大学医学部附属病院では、私たちが患児さんの見守りやイベントのお手伝いをすることで、看護師さんたちの負担を軽減できたと思います。病棟ボランティアでは、看護師さんの業務の中では一人ひとりの患児さんと遊ぶ時間はもてませんが、私たちが病棟に行き、一緒に遊びを通して、入院中の子どもたちのストレスを軽減できたり、単調で苦痛を伴う入院生活での楽しみの一つとなったのではないかと思います。また、私たちが子どもたちと遊んでいる間、家族の方は一人になる時間が持て、少ない時間ですが体を休めることができたと思います。

サマーキャンプでは、参加した子どもたちに夏の楽しい思い出を提供することができたと思います。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

大学の講義で学んでいることをボランティア活動を通して活かすことができました。疾患を抱えている方々とより近くで接する機会が増え、ボランティア活動を通して、看護、特に小児看護で活かせるものを学ぶことができました。患児さんやその家族の方との交流の時間は、私たち学生が患児さんたちからエネルギーを与えてもらう時間となり、とても有意義な時間となりました。

医療に関連したボランティア活動に参加することで、医療に携わる私たちの将来像について考え、これからどのような看護をしていきたいのか、医師になりたいのか考えることができました。学生自身の疾患を持つ人及びその家族の方への理解の向上につなげることができたと思います。



(サマーキャンプの様子)

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

活動メンバーがほとんど4年生で、今年卒業ということもあり、今続けている病棟ボランティアが私たちが卒業しても続くかどうかと今後不安に感じています。後輩をしっかり育てることも大切なことだったので反省しています。今年計画していた、給食部への病棟探検隊を実施することはできませんでした。給食部に外部の人が入ることができるのか、衛生面でどうなのかなどいろいろな問題があり、計画をうまく進めることができませんでした。

また、今年はインフルエンザが流行したため、病棟へ行くことができなくなったりしました。しかし、そんな中でも病棟側も、患児さんも私たちが来ることを楽しみにしてくださいました。今後の抱負としては、病棟側と連携をとり軌道に乗せたこの病棟ボランティアが私たち4年生が卒業しても続けていって欲しいと思います。購入した絵本も貸し出しができるようにし、多くの患児さん、家族の方に読んでもらいたいと思っています。

このプロジェクトを通して、私たち学生が、患児さんや家族の方々との交流からエネルギーをいただいたことによって、これから医療者として頑張っていきたいという気持ちでいっぱいになりました。このプロジェクトを通して学んだことを活かして、患者さんに医療を提供していきたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者 森 園子（医学部4年）

構成員 橋本 絢（医学部5年）

浦上 美加子（医学部4年）

泉阪 季美子（医学部4年）

藤原 唯佳（医学部4年）

高橋 優美（医学部4年）

水本 春菜（医学部4年）

柳田 華子（医学部4年）

黒田 千恵（医学部4年）

川地 歩美（医学部4年）

川田 祐一郎（医学部3年）

中塚 朱里（医学部2年）

福永 将太（医学部2年）

古市 未来（医学部2年）

小傳茂 瑞（医学部1年）

谷上 友里（医学部1年）